先週の説教要旨

「聖霊を冒涜する者」井上隆晶牧師
ヘブライ 6：4～8、ルカ 12：4～12

❶【神から離れることを恐れるべき】「体を殺しても、その後、それ以上何もできない者どもを恐れてはならない。だれを恐れるべきか、教えよう。それは、殺した後で、地獄に投げ込む権威を持っている方だ。」（ルカ 12：4～5）祭司長、長老、律法学者というユダヤ教当局は、イエス様とその弟子たちをユダヤ教の分派、国家の秩序を乱す者として迫害しました。しかしイエス様は迫害する者を恐れず、神を恐れるように言われます。
死を恐れないためには、聖書が語る死の本質を知っておかなければなりません。死には二種類あります。人間が肉体と魂の合成物である以上、死も「肉体の死」と「魂の死」の二つがあります。このうち最も恐ろしいのは魂の死です。魂の死はその人の本体の死ですが、肉体の死は魂を入れる器が壊れることです。魂は神から離れることによって一瞬で死にましたが、肉体の死はその後だいぶ時間を経てから現れました。**「アダムは 930 年生き、そして死んだ。」**（創世記 5：5）この世の人は肉体の死を一番恐れ、この肉体を何とか生き永らえさせようと努力をします。しかし魂が死んでいることに気がついていません。そして誰も魂を生かす努力をしないのです。**神のことを思わないで平気で生きて行けるようにしたのが悪魔です。この悪魔に騙され、自分が死んでいることに気がつかないことが本当の死です。**4 世紀のコンスタンチノープルのヨハンネス・クリュソストモスは62歳で生涯を閉じようとした時、「人は自分で自分を破壊するのでなければ、誰も破壊することはできない。」といいました。人は人を殺すことはできません。**人は神の創造物を壊しても殺すことは決してできないと、教父たちは口を揃えて言っています。なぜなら神の言葉は永遠に残るからです。人を殺すことが出来るのは「その人の罪」だけです。人は自分の罪によって死ぬのであって、他人は殺すことはできないのです。神キリストが「命の木」なのですから、この神キリストという木から離れることを一番恐れなければなりません。このキリストという木につながってさえいれば私たちの肉体が壊されても、中身は死んでいないのです。**時が来たら復活して永遠に生きることができるのです。しかし迫害を恐れ、また悪魔の嘘に騙されてこの世の中に命があると思い、世に心が向くようになると、**その人の魂は麻痺してきて、やがて教会に行かなくても平気になり、キリストから離れることが怖くなくなり、本当に魂が死んでしまうのです。このような死こそ一番恐れなければならないのです。**

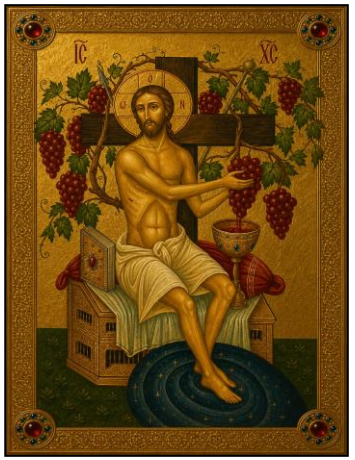
❷【イエスの仲間であることを誇ろう】人々の前で「自分はイエス様の仲間だ」という者は、イエス様も神の国の天使たちや聖徒たちの前で、「この人は私の仲間だ」と言ってくださるというのです。初代教会では公に「イエスは主である」と告白するということは命に関わることでした。キリスト教信者であると分れば捕らえられ、牢に入れられ、財産は没収され、円形闘技場に引き出され、獣と戦わされるか、十字架刑で殺されました。**殉教してでも「キリストを主」と告白するためには、よほどキリストを誇りとし、最も確かな方、真理であり、永遠の命のお方、天国の王、神ご自身であると信じていなければ出来ないことです。人間は価値あるものの為なら死ねますが、くだらんものの為には命を懸けられないからです。**キリストを拒否し「自分はイエス様の仲間ではない」と言えば、↗

週　報

日本キリスト教団　**都島教会**

伝道所設立 1957 年 12 月 1 日　教会設立 2001 年 12 月 2 日
〒534-0012 大阪市都島区御幸町 2-6-17
TEL06-6922-1120　FAX06-6922-1120
Ｅメールアドレス：3533osgm@jcom.zaq.ne.jp
ホームページアドレス：https://miyakojima-church1.com
郵便振替 00920－4－1442 日本基督教団都島伝道所
主任牧師　井上隆晶

２０２６年１１月１日　No.１８９７



《まことのぶどうの木》

都島教会の 2026 年度の宣教方針

標語　《主キリストの忠実な僕になろう》
聖句　「目を覚ましていなさい。いつの日、自分の主が帰って来られるのか、あなたがたには分からないからである。」（マタイ 24：42）
2026 年度の目標
1　毎週礼拝を守り、礼拝出席平均 28 名を目指します。
2　時をよく用いて、出会った人を礼拝にお誘いします。
3　み言葉を聞くだけでなく、行います。
4　会堂建築のための具体的な準備を進めます。